

GSK 健康保険組合

2020 年度 健康診断の変更点(婦人科検査)

➤ 乳がん検査の補助を拡充します。

改定後:マンモグラフィと乳房エコー検査の両方を実施しても自己負担は発生しません。

改定前:マンモグラフィと乳房エコー検査の両方を実施した場合、乳房エコー検査が自己負担

➤ 両方を受診することを推奨している訳ではありません。

一般的に 40 歳未満の乳腺密度の高い世代には「乳房エコー検査」、
乳腺密度が低くなる 40 歳以上には「マンモグラフィ」を推奨する
ことが多いです。しかし、乳房の状態は個人差が大きいため両方の
検査を受けた方が良い場合もあります。
それぞれの検査のメリット・デメリットを理解して判断しましょう。

検査ごとのメリット・デメリット

◆マンモグラフィ

メ リ ツ ト	<ul style="list-style-type: none">・手で触れることのできないしこりを発見できる・石灰化だけの段階で見つければ100%に近い治癒が期待できる・以前に撮ったレントゲン写真との比較が容易にできる
デ メ リ ツ ト	<ul style="list-style-type: none">・被爆の心配がある(飛行機で日本からアメリカ間を移動した程度)・妊娠中や授乳中の女性は受診できない・40歳未満の若い女性はがん(しこりや石灰化)と乳腺の区別がつきにくい

◆乳房エコー検査(超音波検査)

メ リ ツ ト	<ul style="list-style-type: none">・被爆の心配がない・乳腺の発達している若い女性(40歳未満)でもしこりを発見できる・リアルタイムで検査結果をみることができる
デ メ リ ツ ト	<ul style="list-style-type: none">・石灰化が見つかりにくい・操作中に判断するため、検査を行う医師あるいは技師の検査能力に依存する・全体像を記録として残すことが難しい

石灰化とは・・・

乳腺の中にあるカルシウムの集合体です。良性腫瘍の線維腺腫や正常な乳腺にも石灰化が見られます。発見された石灰化のうち、乳がんによるものは約2割といわれます。石灰化の状況によってがんが疑われるときは、直接組織を調べる精密検査を受ける必要がありますので、医師の指示に従ってください。